



学校だより

2月号



令和4年1月31日
横浜市立能見台南小学校

← 学校ホームページ
QRコード

「体験して、疑問に思ったことから学びが始まる」

副校長 馬場 弘子

今年の大寒はその名の通り、本当に底冷えするような寒さとなりました。先日は雪が積もり、校庭は真っ白になりました。はしゃぐ子ども達を見ていて、雪国育ちの私も心がウキウキしてしまいました。

私は小学校1年生のときに父の転勤で横浜から山形に引っ越しました。山形に住んで、1年目の冬は40年ぶりの大雪でした。そのころは、道路の真ん中から小さな噴水が幾つも連なっているかのようにお湯が出ていて、雪を解かすのです。帰宅し「道の真ん中からお湯が出ていたんだよ！！でもね、触ったら冷たかったの。なんでだろう？」という私の疑問に父は答えを知らずながらも、「どうしてだろうね？」と笑顔で返してきました。数年後の理科の学習でその答えが見つかりました。空気があまりにも冷たくて、水の温度でも湯気が出るほど寒かったのです。お湯ではなく、水だったのです。あの時、父がそのまま教えてくれたら、疑問だったことすら、とうに忘れ去っていたかもしれません。

先日、3年生の算数の授業を参観する機会がありました。重さを比べる授業でしたが、どちらが重いのかな、どうしたら比べることができるのかな、と子ども達の目がきらきらしていました。まずは、3人が代表で実際に手に持って重さを比べ、どちらが重いのか決めました。ところが、先生が天秤で比べたら、結果は違ったのです。「えー！」という声が教室に響きました。予想と違った、他のものも調べたい、と子ども達は意欲が湧いた様子でした。3人に一つの天秤が渡され、重さ比べをしました。実際に一人ひとりが天秤を使って比べ、もっと簡単に比べられる方法はないのかな？と学習は展開していきます。体験したところから、疑問をもって解決方法を探っていきます。

資料を読んだり、動画を見たりして知ることもできますが、自分が実際に体験して得た知識や感動に勝るものはないと思います。体験して、疑問をもち、学び続ける子ども達を育てていきたいと思います。

今回、まん延防止等重点措置が適用され、4年生と5年生の宿泊体験学習は残念ながら中止となってしまいました。それでも、今回は二学年とも校外学習という選択が採用されました。宿泊とは活動内容が異なりますが、実際に行って、体験することはとても大切なことです。4年生は社会科見学がメインとなります。5年生はグループ活動を通じた学習がメインとなります。それぞれ、目的は異なりますが、体験して疑問に思ったり、よりよい解決方法を探ったりすることは子ども達の心に残ることでしょう。何を感じて何を学んできたのか、校外学習から帰校した子ども達にたくさん問いかけたいと思います。